

目指す学校像（ミッション）		深い理解を伴う知識学習を基本とした、心豊かな創造力・発信力をもった国際社会に貢献できるリーダーの育成						
本年度の重点目標		1．基礎的・基本的な内容の十分な理解を基盤とした探究的な学びを深め、多様性や関係性を重視する協働的な学びを目指す 2．発達段階に応じた学習集団で学び合い、学びの質の向上を図るとともに主体的で深い学びを実現する 3．一人一人の問いをより広く深く展開できるテーマや題材を設定し異学年活動の質を高める 4．ICTを活用して教育活動を充実させるとともに、保護者の求める情報をタイムリーにわかりやすく発信する						
		学 校 自 己 評 価					学校関係者評価（令和 7 年 5 月） （保護者代表 5 名・学校代表 3 名）	
	評価項目	年 度 当 初		中間評価（10月）		最 終 評 価（3月）		意見・要望・評価等
		現状と課題	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題	
1	よりよい授業を目指す授業開発の取り組み 授業改善	【P】基礎的・基本的な内容の定着度を高めるため、新しい副教材を活用するなどして、家庭での学習習慣を向上するとともに、探究的な学びを日常授業の中でより具体化する必要がある。 【S】児童生徒一人一人の目標を明確化し、できるだけ短いスパンで適切に評価する中で、自発的な学習につなげていくことが必要である。授業においては ICT の活用を促進するとともに、協働的な学習をより推進する必要がある。	【P】副教材や学習アプリの活用状況を教科ごとに定期的に確認して、基礎基本の学力の定着に繋げる。協働的な学びを積極的に授業に取り入れる。 【S】家庭学習と授業との連携を図ると共に、校内で行われる授業研修も効果的に活用し、各授業者は毎回目当てをしっかりと持ち取り組む。意図的なペアワーク等も授業内に計画的に取り入れていく。	【P】昼の学習のアプリ化など、ICTを活用した基礎学力を高める取り組みを進めている。教員グループでの授業研修を行い、探究的な学びの方策について研究を深めている。 【S】1 学期の授業研修も踏まえて、各教員が個人の課題を認識しながら工夫を加え、2 学期に 2 回目の授業研修に取り組んでいる。ICT の効果的な活用、子どもたちの協働学習を更に意識していく。	【P】年間を通して授業研修やグループでの研究授業を重ね、協働的な学びを積極的に取り入れ学びの質を高めた。丁寧な指導を心掛けると共に ICT も積極的に取り入れ学びを深めたり主体性を引き出したりと工夫を重ねながら取り組んだ。 【S】年間を通した定期的な授業研修も積み、双方向型の授業を各教室で心がけてきた。ICT の積極的活用、子どもたちによる協働学習の推進は概ね浸透してきたと言える。	【P】B 【S】B	【P】一定の成果を得られたが、今後は学習指導に AI を活用していく方途を研究し、基礎的・基本的な内容の定着度をより高めていきたい。 【S】一定の成果を得られたが、今後は教科の特性に合わせて ICT を活用して行くことで、基礎的・基本的な内容の定着度をより高めていきたい。	・ICT の活用により、よりよい学習環境が整い、自ら学習できる主体性も引き出されている。一方で、ICT を導入すること自体が目的にならないよう、ICT 化することで何を成したいかを意識し、よりよい授業、並びに学年全体、学校全体の質の向上につなげていってほしい。 ・AI を積極的に活用し、先生方の業務効率化を進めてほしい。そして、効率化され、空いた時間を新たな試みに時間を使ってほしい。
2	学年を軸に児童・生徒が主体的に活動する学校生活・学校行事の実現 主体的な活動	【P】テーマ設定をする際の引き出しを多く持たせたい。選択肢から自己決定していく段階から、創造的なテーマ設定へと、個に応じた自己決定の機会をえられるよう、プロセスを大切にしたい。 【S】教科学習における探究的な学びを保証するため、教材（学習材）の精査と、時間の確保の両面から取り組むことが必要である。	【P】1・2 年生は体験活動を通して主体的に学ぶための基盤を作る。3・4 年生は探究テーマを設定し「疑問・仮説・検証・発表」のサイクルで主体的に学ぶ。 【S】各教科における探究型授業の更なる推進。年間計画を確立した上で、主体性を伴ったグループ活動をベースとした探究活動及び発表の充実を図る。	【P】学年毎に設定された探究テーマに基づき、従来の活動のより一層の充実を図っている。FW についても、仮説検証型の活動を設定することができている。 【S】自分たちが中心となって取り組む FW などを通して主体的な探究活動ができている。新しい行事となる合唱コンの準備にも実行委員を中心に定期的に働きかけている。	【P】対話を通じて考えを広めたり深めたりしながら探究を進めることで個人の学習の質を高めている。同時に学年全体で主体的に取り組む姿勢が育っている。 【S】例年と同様に運動会や開智発表会などの大きな行事において、実行委員や上級生のリーダーシップのもと滞りなく運営された。特にセカンドラーでは初めてなった合唱コンクールは大きな成功をもたらした。	【P】A 【S】A	【P】多くの成果が得られた。今後は学習課題が、児童自身の目的意識と連動できるものとなるよう教材を精査し、児童がより主体的に取り組めるようにしていきたい。 【S】多くの成果が得られた。今後は、行事ばかりでなく、日常の教科指導の中で、児童生徒のモチベーションを高めていけるようにしていきたい。	・「自ら考え、行動する」ことは開智の強みの一つであり、学年が上がるにつれて、その精度や規模が上がり、より主体的に行う姿勢を頼もしく感じる。ただ、一朝一夕に身につくものではないので、引き続き児童生徒の成長を我慢強く見守ってほしい。 ・「探究」については、子供たちの好奇心をより引き出せるように、また相手に伝わるプレゼンが行えるように改善の余地があると感じる。
3	異学年齢のよさを活かした Team の運営 Team の充実	【P】協働的な学びの場として、良い体験ができている。チームでの探究活動については、チーム担任二人がより連携して、それぞれの個性を生かした活動にしていきたい。 【S】リーダーたる 8 年生がチームをよく導いており、チームカラーがよい形で諸活動に反映している。他チームにない個性が発揮されることで、それぞれのチーム力が高まっていくものと考えたい。	【P】Team の探究テーマの探究活動を通して、異学年で協働して学び合い協調性やコミュニケーション能力を高め Team 力へと繋げる。 【S】最上級生の 8 年生のリーダーシップのもと、異学年をまとめあげ、運動会や表現などの大きな行事を通して Team の団結力を高めていく。	【P】Team 探究、エクスカッションや運動会などの行事等、様々な機会而异学年の関わりを持ち、4 年生を中心とした Team 運営を通して社会性を育んでいる。 【S】今年度も 8 年生のリーダーシップのもと準備、練習が行われ、当日の運動会も全体的に大変メリハリがあるものであった。プライマリーとの合同での Team の団結力、絆が一層深まった。	【P】異学年の学びや活動の積み重ねが、多様性を尊重する態度や互いの良さを認め合う人間性を育んでいる。 【S】日々の Team での生活の中で、最上級生の 8 年生が Team をまとめ上げ、S プロジェクトや運動会、年間を通して表現なども積極的に取り組んできた。下級生が上級生を見習う場面も多々見受けられた。	【P】A 【S】A	【P】【S】多くの成果を得られた。今後は、異学年での学びや生活の中で、児童生徒が相互に人を思いやり、敬愛し、ともに成果を分かち合える集団作りになお一層努めていきたい。	・異学年学級で育まれる力の伸長が総合部の最大の特徴であり、日々の Team 活動や学校行事を通して、多様性の尊重やリーダーの育成が異学年集団の中で十分享受できている。 ・より一層、プライマリーとセカンドラーと一緒に活動する機会が増えると、上級生へのあこがれが更に芽生え、セカンドラーへの進級もスムーズにいくのではないかと考える。
4	教育環境の充実と保護者や入学希望者への情報の充実 教育活動の充実	【PS】効果的な ICT の活用場面、機会を個々の教員が持ち寄り、総合部型学習として確立していきたい。基本のコンセプトである、体験的な学習は行事を優先するのではなく、日常の授業の中で具体化したい。	【PS】iPad やアプリの活用が授業内外でも日常化になってきた今日、日々の教育活動を HP や SNS を通して効果的に外部に向け発信していく。	【PS】広報用の新しい動画コンテンツの作成に取り組み、学校パンフの更新に向けても準備している。PS 校舎の全 LED 化に着手し随時設置され、環境もより改善されてきている。	【PS】学校パンフを新調し、SNS や HP でもタイムリーに学校の取り組みを発信し続けた。総合ホールの空調機稼働。教室プロジェクター増設。新 7 年生対象に新しい特待生制度を設けた。	【PS】A	【PS】目標を十分達成できた。今後は、総合部の魅力について、これまで以上に啓発的な広報を行うことで、入学希望者を増やしていきたい。	・総合ホールの空調機稼働、教室プロジェクター増設など保護者会が学園に貢献できた。 ・保護者会では、学校説明会での入学希望者に対する相談窓口の設置なども対応を検討することは可能なので協力体制を作れたらと考える。